

海外だより

UCLAの体育・スポーツ事情

熊本学園大学 井上 勝子

1. University of California at Los Angelesについて

2000年8月から2001年8月までの1年間アメリカのカリフォルニア州にあるUCLAのDepartment of World Arts and Culturesに留学した。UCLAは、カリフォルニア大学の9つあるキャンパスのひとつで、学校としてのスタートは古く(1881年)、カリフォルニア大学の分校になったのは1919年で、Downtownの近くにあった校舎から現在の場所に開校したのが、1929年である。日本でも良く知られていて、日本の若者にたいへん人気があり、日本からの留学生や、訪問者が多い大学である。大学の所在地は、ロサンゼルス西部、太平洋から5kmのところにあるWestwood villageにあり、近くには、Santa Monica beach, Venice beach, など有名なbeachや、Holly Wood, Beverly Hills, など映画関係で有名な場所もある。大学のキャンパスは敷地180万平方メートルと広大で、Royce Hall(劇場)などロマネスク様式の創立時の4つのビルを中心に大学病院、研究所、図書館(8つ)、寮など130の建物がある。“彫刻の庭”には、ロダン、マチス、ミロなどの本物の彫刻が並び、Mathias植物園とともに、落ち着いた憩いの場所となっている。キャンパスの中には、デイクソン・アート・センター付属のホワイト・ギャラリーがあ

り、いつでも特別展をしている。Royce Hallでは、ダンスや演劇の上演が週末には必ず行われており大学全体が、芸術的雰囲気に包まれ、活気に満ちている。体育、スポーツ関係の施設については後で述べる。学生数は学部生25,328人、院生12,166で約37,000人、12のCollegeに183のmajorからなる大きな総合大学である。

2. Department of World Arts and Cultures

私が留学していたのは、Department of World Arts and Culturesという学部であり、Department of DanceとDepartment of World Arts and Culturesの二つが合併して一つのユニークな学部を構成したところであった。この学部は、DanceやArt、Cultureを心理学、民族学、神話学の方向から学際的に研究し、また学ぶ事の出来る学部である。1962年に創設されたDepartment of Danceでは、Modern Dance Choreography, Performance, Dance Education, Dance Ethnology, Dance History and Dance, Movement Therapy等のプログラムを中心にカリキュラムが設定されていたが合併後は、人類学、芸術の歴史、神話学、音楽や上演等の文化的要素を加えたカリキュラムを設定して学生達に提供するとともに、Danceと他の領域を繋ぎ、広く、深く人類の文化を追求する学部として機能している。現在の主なカリキュラムとしては、次のようなものがある。

Selected Topics in Dance/Jazz

Woman Healers,

Ritual and Transformation

Museum Studies

Movement Dynamics

Dance as Healing and Therapy

Theories of Performance

Topics/Dance/Gender

Food Customs and Symbolism

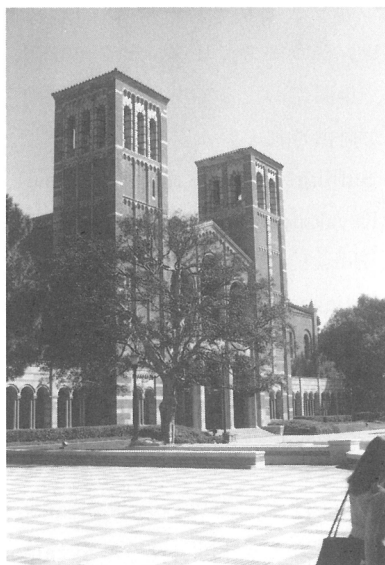
Postmodern Dance

Creative Dance for Children

Dance Education

Cultural Studies

Advanced Choreography



Royce Hall

Dance & Visual Media
 American Indian Studies
 Research Method and
 Dance & Folklore
 Bibliography in Dance
 Music for Dance
 Music
 Advanced Improvisational Dance
 Movement Observation
 Dance as Culture in Education
 Advanced Studies in Dance Ethnology
 Others

私は、“To research the importance of Dance as a form of therapy”を課題に留学したので、American Dance Therapy Association and the American Association for the Study of Mental Imageryの会長を務めたこともあるProfessor Irma Dosamantes-Beaudryのもとで研究を行った。週一回のmeetingのほかには彼女の担当科目である「Women Healers, Ritual and Transformation」「Movement Dynamics and Group Process」「Dance as Healing and Therapy」等のクラスにも出席した。ユニークな授業の進め方や評価の仕方（Dance Therapyを様々なmaterialを使って製作した創造物で、説明する等）に感心させられ、たいへん参考になった。

その他、Techniqueを中心にするクラスや、Movement Observation and Analysis、およびImprovisational Danceのクラスに出席した。UCLAはQuarter制なので多くのクラスを経験することができ幸いであった。クラスでは、年配の先生が自ら良く動くことや、学生達が表現豊かで素晴らしい動きをすることに感動した。学部の発表会を何回か見る機会があった。ステージでの発想豊かな作品の上演や、学部の



Movement Observation and Analysis の class

ビル Kaufman Hall 全体（玄関、教室、階段、シャワールーム、プール、ガーデン）を使って行う発表会にはその発想の素晴らしさに驚かされた。

3, UCLAの体育・スポーツ

アメリカの大学のなかには、カリキュラムに体育教育（健康教育や、体育実技）をおいている大学は多々あるが、残念ながらUCLAには科目としての体育はおいていない。学生達の体育活動については、一般学生はRecreation Centerを中心に自主的に選択した種目を1年毎に登録して参加する。クラブ活動に参加している学生は（Student-Athletes）、クラブの練習に参加すると共に、大学代表として多くの試合に出場する。この学生達にとっても学業が第一で、試合や練習で出られない授業は、Academic ServicesのStaffにより、補習が行われる。一定の成績が取得できないと試合への出場停止、奨学金の停止等が待っているの、競技だけに熱中する訳にはいかない。UCLAのスポーツ施設で行われる試合ほとんどが有料で、練習を自由に見学する事も出来なかった。

アメリカンフットボール、バスケットボール、テニスなどには、一般の人々の入場者が多く、いつもチケットは、完売していた。大学のほぼ中央にチケット売り場があり、スポーツの他にもダンスや、演劇など、多くの種類のチケットを販売していた。

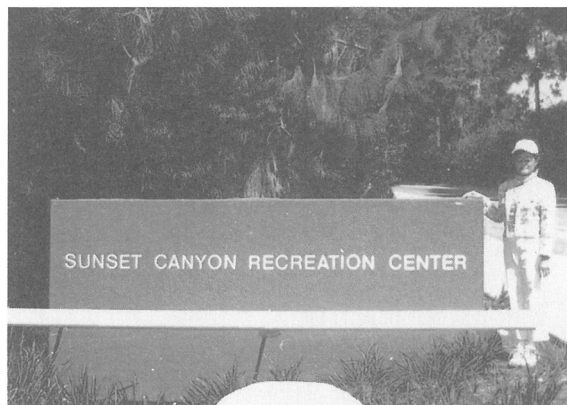
Royce Hallのほかにも劇場があり、週末には必ずアーティストによるダンスや、演劇の公演があり、多くの市民が参加していて、夜でもキャンパスは賑やかであった。

Recreation Centerには、テニスコート、プール（競泳用、二つのファミリープール）、円形演技場、散歩道、チャレンジコース、ピクニックエリア、などの施設があり、年間にわたってあらゆる種類のスポーツプログラムが提供されている。

Rowing, Sailing, Gymnastics, Handball, Squash, Jogging, Kayaking, Volleyball, Yoga, Swim, Weight Training, Horseback Riding, Archery, Skating, Golf, Fitness, Boxing, その他、多くの種目がbeginnerからadvanceまで用意されていて、子どもから大人までいろいろな年齢層の人々も決められたFee（学生はほとんど半額）を払って登録すれば、いつでも選んだスポーツをすることができるようになっている。

スポーツ施設は、John Wooden Recreation and Sports Center（主にバスケットボール）、Sycamore Tennis Court, Los Angeles Tennis Center, Rock Wall, Pauley

Pavillion, Men's Gymnasium, Marina Aquatic Center, Drake Track Stadium, Women's Gymnasium, などの他にも多くのスポーツ施設があり、予約制で学生や一般の人々に開放されている。



Recreation Center の前で筆者

キャンパスの外周は美しい家々の前に歩道があり、学生達が毎日自主的に走っている光景によく出会った。また大学の周りにある学生用のアパートには、Pool と Athletic Gym を備えている所が多く、学生達が利用しているのが外からもよく見えた。「彼／彼女たちは、どこでこのように毎日運動する習慣を身につけたのだろう」と、あまり自主的に運動しようとしないう日本の学生のことを思い出しながら考えた。

夏休みは、小学生、中学生、高校生のいろいろな種目の団体が、寮に泊まって、グラウンドやスポーツ施設で練習や試合を行っている。大学生はそのリーダーとなって生き生き活動していた。

UCLAには、正課としての体育はないが、キャンパスでは、朝早くから夜までいろいろなスポーツ（剣道やラクロス、サッカー等）が展開されていた。スポー

ツをしようという意欲のある学生にとっては、たいへん恵まれた環境といえるが、自らスポーツをしようと思わない学生にとっては、スポーツをする機会は全くない。

私が留学していたDepartment of world Arts and Cultures は Kaufman Hall という building を専用に使っていた。その中には Dance の上演が出来る照明設備や音響設備それに600程の観客席を備えた Hall や Lesson の出来る多くの部屋、小ステージのついている教室、それに Pool 等があり、Dance の Lesson で汗をかいた後はプールで泳ぐこともできた。

現在この building は、改修中であり、外観はそのまま中だけを作り変えるという作業を3年間かけて行っている。

アメリカの大学と日本の大学では敷地の広さや建物のスケールは比較にならないが、特に体育施設においてはたいへん差があり、日本の大学で体育が正課からなくなると、スポーツ施設を利用できる学生は激減するのではないかと思われる。



Kaufman Hall
(World arts and Cultures 専用の building)

九州保健福祉大学

九州保健福祉大学 柿山 哲治

●九州保健福祉大学の沿革

九州保健福祉大学は、平成11年4月に宮崎県延岡市に公私協力方式で誕生した宮崎県北部唯一の4年生大学である。社会福祉学部（東洋介護福祉学科，社会計画福祉学科，臨床福祉学科）と保健科学部（作業療法学科，言語聴覚療法学科，視機能療法学科）の2学部6学科でスタートし，平成15年4月からは薬学部（薬学科）を増設して，保健・医療・福祉の総合大学となった。また，平成14年度より，社会福祉学部と保健科学部に通信制大学院（修士課程）を設置し，平成15年度から九州保健福祉大学大学院修士課程社会福祉研究科（通学制）も新設した。なお，九州保健福祉大学を経営する学校法人高梁学園は，昭和42年に岡山県高梁市に順正短期大学と順正看護専門学校を設置したことから始まり，平成2年には吉備国際大学を設置している。

●健康・スポーツ・レクリエーション系カリキュラム

本学のカリキュラムの中で，健康・スポーツ・レクリエーション系の科目は，基礎教育科目，専門教育科目，臨床児童福祉関連科目の3つにまたがっており，体育を専門とする教授1名，助教授1名，専任講師3名，非常勤講師1名の6名で以下の科目を担当している。

・基礎教育科目

保健科学部および社会福祉学部1年次（半期）に「生涯スポーツ論」，保健科学部1年次（半期）と社会福祉学部2年次（通年）に「生涯スポーツ実習」が開講されている。保健科学部作業療法学科のみ「生涯スポーツ論」および「生涯スポーツ実習」が必修であるが，それ以外の学科では選択となっている。生涯スポーツ実習では，ソフトボール，サッカー，バレーボール，バスケットボール，バドミントン，卓球，グラウンドゴルフ，ユニホッケー，ソフトバレーボールなどを行っている。また，両学部の1年もしくは2年次に健康科学論（半期）が開講されている。なお，薬学部の基礎教育科目にはこれらの科目は開設されていない。

・専門教育科目

東洋介護福祉学科にレクリエーション活動援助法

（1年次），運動療法（4年次），社会計画福祉学科および臨床福祉学科に福祉レクリエーション論（2年次），作業療法学科にレクリエーション実技Ⅰ・Ⅱ（3年次）が開講されている。

・臨床児童福祉関連科目

平成15年4月より臨床福祉学科に保育士専攻課程が開設し，この課程に基礎技能（体育Ⅰ・Ⅱ）（1年次），基礎技能（体育Ⅲ）（2年次）が開講されている。

●スポーツ施設環境

本学には，400mトラックのとれるグラウンドとバレーボール2面分の体育館，柔道場および剣道場が設置されている。体育館の2階にはフィットネスルームがあり，ウェイトトレーニングマシン，自転車エルゴメーター，トレッドミルが各1台ずつ設置されている。また，作業療法学科実習棟にレクリエーション室が設置されている。

●体育部会

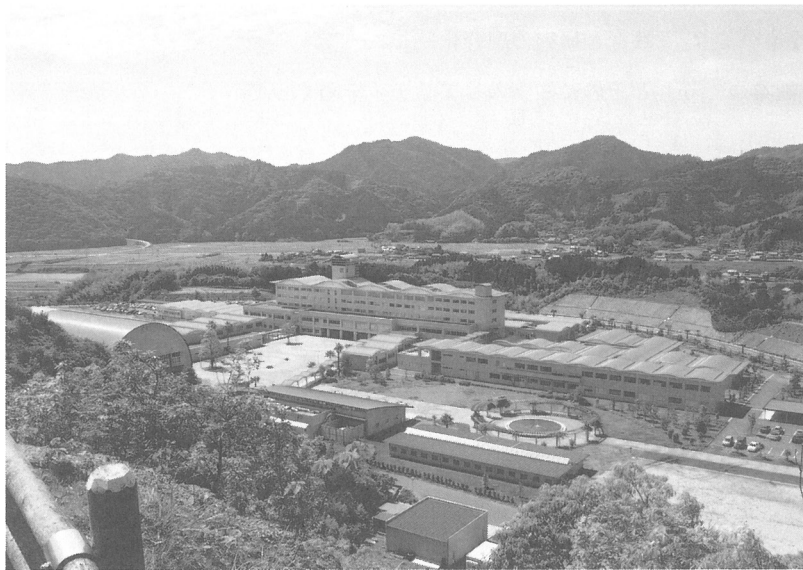
本学の体育部会には，硬式野球，サッカー，バレーボール，バスケットボール，硬式テニス，ソフトテニス，バドミントン，卓球，水泳，陸上，女子ソフトボール，フットサル，柔道，剣道，弓道など数多くのサークルがある。しかし，サークル数に対してスポーツ施設が不足しているため，延岡市内のスポーツ施設を利用して活動しているサークルも多い。

●現状と課題

開学当初は保健科学部3学科において，基礎教育科目の「生涯スポーツ論」および「生涯スポーツ実習」が必修であったが，完成年度を迎えたと同時に，それらを必修として残したのは1学科のみとなった。特に，生涯スポーツ実習を選択する学生数は，徐々にではあるが減少傾向にある。また，今年新設された薬学部の基礎教育科目には，「生涯スポーツ論」，「生涯スポーツ実習」，「健康科学論」のいずれも開設されていない。また，専門科目においても大学全体として，スポー

ツ・レクリエーション実習科目のスリム化が進んでいる。我々体育教員も、自助努力として、ウォーキング大会を開催したり、校内スポーツ大会への協力や、体育館やグラウンドの空き状況を学生課を通して学生に公開し、授業やサークル以外でのスポーツ施設の利用

を促している。今後も、九州地区大学体育連合の研修会や、体育・スポーツ教育研究などで発表された諸先生方の研究を参考にしながら、健康・スポーツ・レクリエーション系科目を受講する学生が満足できる授業の展開を模索し続ける必要がある。



「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」春期研修会の概要

1) 開催期日：平成14年3月23日（日）～24日（月）

2) 会 場：九州大学国際研究交流プラザ

3) 研修内容：

(1) ワークショップ

「コミュニケーション・ワークの体育科目への応用について ―コミュニケーションはキャッチボール―

佐藤 靖典（福岡県レクレーション協会専務理事）

(2) シンポジウム

「魅力ある授業づくり ―教育と研究の融合化―

1) 「魅力ある授業づくり」とその<知>のリアリティをめぐって

根上 優（宮崎大学）

2) 魅力ある授業

―講義によって行動変容を促すのは可能か―

橋本 公雄（九州大学）

(3) 一般研究発表

1) 地域住民・学生・教員の地域共生を目的としたフィットネス教室の開催

村木 里志（県立長崎シーボルト大学）

2) マリン（シーカヤック）実習の実施とその効果について

西村 千尋（長崎県立大学）

3) 卓球授業の一実践

―スポーツ文化の主體的な継承のための構想力を得ることを目的として―

秋元 忍（九州大学）

4) 地域スポーツ振興に果たす大学の役割

―大学スポーツの地域貢献―

富山 浩三（北九州市立大学）

5) 学生参画型授業の事例

―授業研究の立場から―

森 正明（中央大学）

九州地区大学体育連合春期研修会に参加して

九州保健福祉大学保健科学部 専任講師 柿山 哲治

春期研修会といえば、私の中では秘境の地、温泉、雑魚寝というイメージがあった。しかし、今年は開催地が福岡ということもあり、昨年の雲仙会場で世話役の宇部一先生(精華女子短期大学)が宣言された通り、都心という特徴を存分に生かした会場・宿泊施設で開催された。

一般発表は5題。本研修会のメインテーマでもある「魅力ある授業づくり」に相応しい、九州地区を代表する若手教員の発表は、同年代である私にとってどれも刺激的なものであった。演題をみてもわかるように、地域の特性を生かした、あるいは、地域住民との共生、地域貢献など、大学体育の授業に“地域”をキーワードとした様々な取り組みがなされていることがわかる。もし、大学の存在価値そのものが地域への貢献度の大小で評価されるようになるならば、大学体育こそ、その大きな担い手になるに違いないと感じさせられた。また、本研修会は九州地区と銘打ってあるにもかかわらず、中央大学の森正明先生が遠路遙々一般発表に参加して下さったことに驚きと喜びを覚えたのは私だけであろうか? 森先生が発表やそれ以外の会話の中で発せられた「以前から九州地区大学体育連合の活動に興味を持っていた」という一言は、我々に自信と誇りをもたらすと共に、九州地区大学体育連合の存在価値をあらためて認識させられたに違いないと思った。

シンポジウムは「魅力ある授業づくり」—教育と研究の融合化—の3年間の総括として、九州大学の橋本公雄先生、宮崎大学の根上優先生のお二人がそれぞれの立場から発表された。橋本先生からは、魅力ある授業づくりの具体的方策として、学生にとって魅力ある授業となるための柱と、学生の運動行動変容の簡単な評価法を提示して頂いた。一方、根上先生からは、魅力ある授業づくりに関する過去3年間の研究発表を踏まえながらも、スポーツをめぐる「健康」言説とその背後を貫く思想や、現代の若者世代がスポーツの持続に当たって解決すべき発達課題とネットワークの形成といった「魅力ある授業づくり」にむけての「方法論的スタンス」についての問題提起がなされた。座長を務められた鹿児島大学の飯干明先生は、魅力ある授業

づくりをテーマとした3年間を振り返って、シーカヤックのような地域特性を生かした実技種目や学生自身にウォーキングマップを作成させるウォーキングの授業といった、実習のあり方についての新しい試みがいくつか生まれたことを成果としてあげられた。また、一般発表は実習に関するものが多く、講義に関する発表が少なかったことから、今後、九州地区でプロジェクト研究を立ち上げて、理論と実践の結びつきをより重視した教育研究活動を展開して行くことを今後の課題として提起された。

情報交換会は、例年通り、和やかな雰囲気の中で開催された。特筆すべき点は、進行役の磯貝浩久先生(九州工業大学)が、参加者全員にマイクをまわし、参加者の情報発信を促したことである。中でも、会場係として特別参加して頂いた、九州大学大学院生の西田さんと村上さんの二人が、研修会の参加目的を「就職活動の機会の一つと考えている」と発言してくれたことには感銘を受けた。他大学の院生にもこのような機会を数多く与え、一人でも多くの院生がその希望を叶えられる組織になってくれればと願わずにはいられない。情報交換会は公式には第2部は設けていないとのことだったが、非公式には第3部まで開催された模様…。

研修2日目は、総会で幕を明けた。前夜の情報交換会の席で、第一福祉大学の徳永幹雄会長が「総会出てからが一人前!」と言われたことも手伝って、参加者のほぼ全員が総会に顔をそろえた。役員の変更が行われ、市川孝夫先生が次期会長に選出された。また、3年間で事務局が変わるため、九州東海大学の米沢久理事長から鹿児島国際大学の亀丸政弘理事長にバトンタッチされた。

ワークショップでは佐藤靖典先生(福岡県レクリエーション協会専務理事)より、「コミュニケーションワークの体育科目への応用について」と題した講義を受けた。さすがは百戦錬磨の佐藤先生。壇上に上がるなり、「この雰囲気は大嫌い!」とあって、参加者全員の上着を脱がせてフロアに集め、握手、拍手、ジャンケンを用いたレクリエーションで、その場の真面目な暗い雰囲気をパーッと明るい打ちとけた雰囲気に変

化させてしまった。それ以外にも、おてだまを使ってコミュニケーションの送り手と受けてのピンポイントをわかりやすく提示して、魅力ある授業とは、良いコミュニケーションからという事実を論理的に教えて頂いた。

1泊2日の短い研修期間であったが、私にとっては、次年度の授業にむけての貴重かつ有効な教材となった。今回ワークショップ中に行った佐藤先生の手軽に授業に取り込めそうな実技が、今後の研修会の中で1

時間でも設けて頂くと、教材の乏しい私のような者にはより価値ある研修になると思う。順当に行けば次年度は熊本県が開催場所となるが、日本体育学会を開催するため、急遽鹿児島県で行うことがアナウンスされた。聞くところによると前回鹿児島で開催された時は、おみやげとして全員に焼酎が手渡されたと言う。亀丸新理事長にプレッシャーをおかけして大変申し訳ないと思いつつも、内心期待して臨みたい。

春期研修会を終えて

九州工業大学 磯貝浩久

平成14年度の春期研修会を無事終えることができ安堵しています。今回の研修会は、宇部理事を中心にして、他の福岡県理事がサポートするという体制で準備にあたりました。

会場選びに関しては、11年度佐賀の龍登園、12年度大分の別府、13年度長崎の雲仙と素晴らしい温泉が続いていましたので、少し趣向を変えてアーバンリゾートというコンセプトで、福岡市百道周辺を選び、大会会場を九州大学国際交流プラザ、宿舍・情報交換会会場をシーホークホテルにしました。国際交流プラザとシーホークの間が、徒歩で十数分と少し離れているという難があり心配しましたが、元気に歩かれている先生方の姿を拝見し、胸をなで下ろしたことを記憶しています。シーホークと交渉し、宿泊・懇親会費をリーズナブルな値段にしてもらったつもりですが、高いと感じられた先生にはご容赦願いたいと思います。

さて、今回の研修会は、3年間掲げてきた大会テーマ(魅力ある授業づくりー教育と研究の融合化)のまとめの年でした。シンポジウムでは、飯干先生の司会のもとで、橋本先生と根上先生に3年間の総括をしていただきました。お二人の先生のお話を伺い、これまでの成果が一応確認できたのですが、それよりも「魅力ある授業づくり」というテーマがますます重要性を帯びてくるように感じました。今後もこのテーマが、体育連合の活動の中心軸となるというお二人の主張だったように思います。私なりに感じたことは、これまで3年間は、各先生の授業実践から帰納的に魅力ある授業づくりを明らかにするという方向でしたが、今後

は魅力ある授業づくりの共通項や普遍的側面を示した上で、各授業実践を捉え直すという演繹的なアプローチも必要になるということでした。

ワークショップでは、「コミュニケーション・ワークの体育科目への応用について」というテーマで、福岡県レクリエーション協会の佐藤先生に実技を交えてお話ししていただきました。やはりレクリエーションのプロは、皆を乗せていくことが上手で、ジャンケンゲームなど本気でフロアーを駆け回りました。授業で学生のコミュニケーションスキルを高めるためのヒントを得たような気がしました。

心配していた一般発表も、5名の先生に登壇していただくことができました。発表内容も私達の教育研究に刺激を与えるものだったように思います。発表者の多くは、発表内容を「体育・スポーツ教育研究」に論文投稿する意欲を示されていました。研修会と機関誌がリンクする良いチャンスだと思いました。しかし編集委員の立場から、研究会参加者だけでなく、多くの先生方にどんどん投稿していただき、投稿数が増えればなあと思ってしまう。

情報交換会と称して行われた懇親会では、楽しくコミュニケーションが図られていたように思います。やはり、コミュニケーションには一滴のお酒が重要な役割を果たすと改めて感じました。

最後に、宇部先生をはじめ準備にあたられた先生や、快く演者をお引き受けいただいた先生に感謝申し上げます。そして、参加された先生にとって、何らかの収穫のある研修会であったならば幸いに思います。